

「新しい東北」官民連携推進協議会
令和4年度 岩手県意見交換会（第3回）議事概要（公開用）

令和5年2月20日
「新しい東北」官民連携推進協議会事務局

【日 時】令和5年2月20日（月）13:00～15:00

【場 所】釜石市民ホール TETTO

【出席者】（敬称略）

<副代表団体>（所属の五十音順）

株式会社岩手銀行／岩手県／国立大学法人 岩手大学／特定非営利活動法人 いわて連携復興センター

<今年度の意見交換会テーマに関連する団体（主団体）>

一般社団法人 浄土日和

<オブザーバー>（所属の五十音順）

株式会社 JTB パブリッシング／特定非営利活動法人 ディスカバー・リアス

<復興庁>

復興庁 復興知見班／復興庁 岩手復興局

<事務局>

株式会社 JTB

【議事概要】

1 開会

復興庁より、第3回の意見交換会となる今回は、年度内最後の回となる。1月に行われた実践の場の内容の振り返りと次年度以降の取組について、活発な議論をいただきたい旨、挨拶した。

2 各団体の活動紹介

国立大学法人 岩手大学より、取組紹介資料をもとに取組を紹介した。

3 実践の場の開催結果を踏まえた意見交換

(1) 本年度における実践の場の意見交換の内容を踏まえ、改めてエクスカーションプログラムを推進する際の課題等について議論

- 今年度造成した個別のプログラムの更なるブラッシュアップ等にどのように取り組んでいくか
- 掲げられた課題等に関して、本協議会や各副代表団体の果たす役割等は何か

実践の場では幅広い課題を得ることができたが、ブラッシュアップのためには想定するターゲット層やテーマを整理し、それを基に課題を解決していくのが良いとの意見が見られた。また様々なターゲット層に対し、柔軟に対応できるようなプログラムを準備する必要があるとの考えが示された。プログラム造成については三陸沿岸エリアを広域的に活かしていくような視点が望まれた。

プログラムの運営体制やプログラムを組む際の発注・受注の連携、ガイド、今後のプログラム造成等については、みちのく潮風トレイルのネットワークの中でチームを組んで進めていくという方向性が1つ示された。同時に、人的な部分を含めた土台作りは今後の大きな課題であるとされた。

(主な意見)

- ・ガイドをしていると「皆さんがどこまで震災復興を求めているのか」と考える。よくあるのは、最後に気持ちが沈んでしまい、そのまま終わってしまうパターン。それをどうにかしようと潮風トレイルやうみねこ丸を用いたりしたが、実際に意見をいただくと「もう少し震災復興に特化した方がいい」という声もある。お客様の属性に応じてもう少しプログラムを合わせることができるといいのではないかと思っている。そういう変化に応じてプログラムを作作ができる人材がいて、体験メニューもあるのは宮古周辺の強みである。
- ・今回は、どうしたら今回の新しい東北にマッチングするプログラムになるか試してみたいと思った。しかしプログラムを作るまでの間に、どういった場所や時期を想定しているのか、どういった方が参加するのかというところまで踏み込んで意見交換ができなかつたと思う。
- ・エクスカーションプログラムというと、比較的大ロットの商品になると思う。最終的にはそうなるというゴール感としてはあってもいいが、その手前に、プログラムを作る上で土台のようなものを確りと作っていかないと、なかなかそこには辿り着かないと思う。エクスカーションプログラムのためだけに人を雇ったりすることは難しいので、日々も担えるものをどう作ることができるかというところ。例えば小さいプログラムを提供できる人を増やすなど、そういうことも必要かなと思う。ただ、“満遍なく”ということだとなかなか事が進まないので、今回のようなゴール感を置いた取組は良かったと思う。
- ・エクスカーションプログラムを実施することを完成とするのであれば、気仙沼や田野畠など他にもいくつか候補地があったので、別のところでも実践の場の様なことをやってみると、宮古と共に通している「本当の課題」みたいなものが出てくるのではないかと思う。そういうことも考えてもいいのかなと思った。
- ・エクスカーションプログラムということで研究者の方々が対象になるが、ジオパークや震災復興も取り上げられているので、幅広い様々な面白みとして良い内容なのではないかと思った。ただし厳しいご意見もあるので、今後一緒に考えていくたいと思う。
- ・資料を見た限りでは、例えばプログラム造成の運営体制や特定の窓口が欲しいけれども難しい、一方で全体を通してのガイドは欲しいなど、課題が矛盾しているところが見受けられる。どこにコンセプトを置くか、どこにターゲットを置くか、どういうターゲットに来てほしいのかなどコンセプトをある程度決め、そこに課題をどう当てはめていくのかを議論すれば、方向性としてまとまっていくのではないかと思う。
- ・三陸全体でやるのであれば、ビジターセンター三陸復興国立公園の中で、田野畠、大船渡、碁石海岸にもインフォメーションセンターがあるので、広域に広げた方がいいと思っている。例えばお客様が仙台から来るのであれば、より近い陸前高田や大船渡で先にレクチャーを受け、バスで移動して宮古などに北上した方が理に適う。ゴールであるG7や大阪万博を考えるのであれば、三陸沿岸広域で考えた方がいいと思う。

- ・みちのく潮風トレイルはそれぞれにサテライトという名称で北山崎ビジターセンター・浄土ヶ浜ビジターセンター・碁石海岸インフォメーションセンターが各市町村のトレイルの管轄を担っている。他にもいろいろな組織があるが、具体的に横のつながりが深いのはみちのく潮風トレイルなので、みちのく潮風トレイルで一緒にチームを組んでやるのであれば、自分が中心的になってやっていきたいと思っている。
- ・名取のトレイルとも一緒に運営をしている。今回は岩手県のことなので3つのセンターの話をしたが、名取などとも今後、情報共有などでつながっていかなければいけないと思っている。
- ・本会議の初回に「まずやってみましょう」という話になり実践に移ったが、事務局の説明は実践したらそれで終わりと言っているように聞こえる。当初、実践したら次の展望が見えてきて、その

後、それをもとにして議論を深めていこうという約束だったにもかかわらず、何も問題抽出も分析も解決もせずに終わりにしようとしている。その点について事務局はどうお考えだろうか。

- ・このような事業を進めるのであればそれらを引っ張る主体がいて、それに本日お集まりの方々がお手伝いをし、できることを持ち寄るはずなのに、これでは何も問題解決をせずに終わりかなというふうに受け止められる。実践してみた中で、こういうやり方だったらやりやすい、こんな規模だったらやりやすいなど、「できることとできないこと」がある程度わかってきたと思う。その分析をあまりしないままでは、前に進まないのではないか。それは事務局が考えてくるべき話なのではないかと思う。
- ・今回のツアーはコンテンツとして考えると要素として非常に面白い部分があったが、要はつなげ方、並べ方があまり面白くなかったというのが正直な感想だ。
- ・特に印象に残ったのは田老のたろう観光ホテルと学ぶ防災の語り部の方のお話。これは以前から、いわゆる震災の語り部の活動として存在しているコンテンツだ。震災に関する見るべきもの・聞くべきこととして、12年経っても残っているので相当価値がある。それらをちゃんと利用すべきだと思うし、まだまだ知らない人もたくさんいる。
- ・自然で言うと、リアス式海岸の海と山の絶景もまだ知られていない。ただ、海と山をどういうルートでどういうふうに見せるか、見せ方、行き方が大事だ。トレイルを歩いて疲れてしまったという人もいるし、船に乗っているだけではつまらないという人もいる。人によってルートは違えた方がいいし、いろいろなルートがあると思う。
- ・公的な震災遺構でなくても、震災があつて残ったものという「遺構・もの」、それを語る「人」、「自然」という3つのコンテンツの要素が組み合わされれば非常に価値のあるツアーが組めると思う。もう1つ加えるなら「グルメ」。「場所・人・自然・グルメ」という4つの要素をうまく組み合わせて、お客様に合ったツアープログラムを考えた方がいい。震災復興にどのぐらいの関心やニーズがあるのかはわからないが、まだまだ見せるべき、聞かせるべきだと思う。それをメインにすると引いてしまう人も多いので、「自然」と「グルメ」とうまく組み合わせるといい。
- ・「場所」「人」「グルメ」ということで言えば、陸前高田・大船渡という地域は碁石海岸という素晴らしい自然と陸前高田の震災遺構、一本松や雇用促進住宅というアパートの廃墟がある。海の幸のグルメは宮古に負けないものもある。いろいろな地域で4つの要素を組み合わせた内容を作つていけば、シリーズ化できるのではないかと思う。

(2) 具体的なプロジェクトの企画・実施を通じて、地域の抱えている課題解決や国内外への情報発信につなげるというアプローチ方法が有効であったか

本プロジェクトが国内外への情報発信につながるということについて同意が得られた。一方で、本年の取組のみでは、地域が抱える課題の解決にはつながっていないという意見が得られ、更に具体的な取組を続けていく必要性が示唆された。

(主な意見)

- ・「地域の抱えている課題解決」については、どうつながったかわからない。プログラムが実際に完成して行われれば、情報発信には間違いなくつながると思う。アプローチ的には有効だったのではないかと思う。
- ・今回は「見せる」ということで震災の遺構や自然を見せたが、それが地域課題の解決なのかと言われると疑問がある。情報発信という意味では、国内外から来た方がこういうものがあるよと出してくれるのではないかと思うので、有効な部分はあると思う。

- ・地域の抱えている課題は、浄土日和の佐々木さんのような方がまだたくさん必要なのではないかということが課題だ。そういういた課題を共有することはできたのかなと思う。
- ・課題解決についてははつきりとした回答はないが、三陸宮古周辺の良いところを国内外に対して発信するというプロモーション的なところは、アンケートの結果を見る限り良いのではないかと思う。

(3) 今年度の取組を踏まえ、次年度の取組テーマや対象とする地域をどう考えるか

次年度の取組テーマについて、本年度に引き続き MICE 向けたエクスカーションプログラムということに決定するのは尚早であり、議論が必要だととの意見が得られた。

一方で、「人が実際に足を運んでくれるプログラムを通じて、情報発信をする」可能性を追求していくということに対しては、一定の同意が得られた。

今後の取組として、まずは今いろいろな地域にある体験メニューや語り部などの情報を一度すべて洗い出してみるのが良いのではないかとの意見が挙げられた。

(主な意見)

- ・次年度も引き続きエクスカーションなのかどうかは、まだ議論が必要だと思う。なし崩し的に“今年やったから来年も主団体を佐々木さんに”みたいな話だと負担だと思うので、もう少しきちんと話して決めた方がいいと思う。
- ・来年度以降どうするかということについては、コンセプト設計、どういった層にどういったことを知ってもらいたいのかをはつきりした上でやった方が、どんな課題解決の手法を取るかというところにも焦点が合うのではないかと思う。そういういたところを意識してやられるといいのではないかと思う。
- ・MICE 向けて進めていくのは良いことだが、いずれは地元・岩手でこのコンテンツをどう活かして活用していくのかというところが大事で、あと数年で岩手だけで実施するのは難しさもあると感じた。今年やってみて、大テーマである「関係人口の増加」は変えずに、次年度はまったく違った視点や趣向を取り入れてやってみてもいいのではないかと思った。整備していくなければいけないところ、強化していかなければいけないところが今回見えたので、来年度はどこに絞ってやっていくのかという計画を立ててもいいと思う。MICE ありきで進めるというのは違うのかなと感じる。
- ・MICE がテーマでもいいとは思うが、個人的には沿岸と内陸の関係性がもう少しできるといつてはいる。今回、盛岡市の復興担当課の方にも来ていただき、内陸の人たちがもっと沿岸のことを知ることが重要だと感じてくださった。そういういたところはもう少し拡大できた方が、今後岩手に人を呼びこむ戦略や、岩手を発信するという意味でも強くなるのではないか。盛岡や宮古だけではなく、岩手県としての発信ができればと思う。
- ・次年度どう取り組むかというところでは、2025 年度に MICE があるということから逆算して、あと 2 年間で何かを構築するためには何をやっていかなければいけないのかということも考えることに現実味がある。
- ・情報発信の手段としては、うまく活用すべきではないかと思っている。ただ、やるならば今回のようにはスポットではなく、ある程度広域的な視点がいいのではないか。三陸沿岸はとても広く、例えば三陸鉄道は全国で一番長い第三セクター鉄道という特徴があるなどそれぞれの特色があるので、実験的にやるということであれば広域的な視点からのアプローチをやってみるのも面白いのではないか。

- ・いろいろな体験メニューが地域ごとにあり、地域の語り部がいらして、いろいろな会社もあるので、「こここの地域ではこれができる」「どういった方がいてどういうことができる」というのを探すところからやるものもいいのかなと思う。各市町村や観光協会など皆さんが情報を持っているので、それを集め、一旦何か案を出していただいて、それから意見をいただく。今回のお客さんに対してはどういったところのどんなメニューがいいのか、どんなメニューがどういうふうに合わせられるかということを含めて情報を洗い出して、もう1回組み直すことを最初に入れてもいいのではないかと思う。
- ・最近は、いろいろな方の声にいかに対応できるのかということが大事。「コースメニューを作りました」で完成ではなく、「歩くのが苦手な人バージョン」とか「もっと歩くのが得意な人バージョン」がある。同じ浄土ヶ浜のガイドでもインバウンド向けなのか、もっと詳しく浄土ヶ浜を知りたい人向けなのかななど、1つのメニューを作るにもいろいろなパターンになる。そういったものが徐々に増えていくといいと思う。
- ・うちもある程度は把握しているが、毎年新しい資源も出てくるので、今一度情報を集約することはあってもいいと思う。
- ・確かに平成29年度のこの協議会の取り組みで、調査してリストアップしたはずである。コンサルがその辺を調べて、結構分厚い報告書を作った記憶がある。5年経って様変わりはしているが、そういう変化を見ることも1つだと思う。
- ・皆さんの中立位置や協議会の理解が異なるので、議論が噛み合わないところがある。次年度からになると思うが、事務局側でもう少し細かくコミュニケーションを取ってもらえるとスムーズに行くと思う。
- ・全然議論していないのに結論だけまとめるというのは、会議としていかがか、不自然な感じがする。
- ・結論はとりまとめなくていい。様々な関係者の情報共有と連携を図っていくための場がこの協議会には求められており、そういう観点から見て、今回の岩手の実践の場で、域内・域外の方々が新たにつながったと考えている。次年度以降の取組の方法や視点などは多々あると思うし、本日の議論ではまだまだ足りない。まだ、全然議論が深まっていない。元よりなかなか結論が出にくいものであるため、そこに関しては引き続きしっかりと事務局としても汗をかいて、個別にも皆様と議論を重ねていく必要がある。
- ・今後この協議会と岩手県の中に既にある官民の連携を図っていくようなプラットフォームとが、次年度以降さらにお互いに顔が見える関係になっていく必要があると思っている。

4 閉会

実践の場を行ったことにより、エクスカーションプログラムの更なるブラッシュアップのための改善策、また今後の方向性や運営体制について有益な意見が得られた。また「人が実際に足を運んでくれるプログラムを通じて、情報発信をしていく」ということを軸に協議会を進めていくことには一定の同意が得られている。一方で、次年度の取組テーマをエクスカーションプログラムに絞るか否かについては、もう少し時間をかけて慎重に検討、議論することが必要である。

本日の議論では議論が深まったとは言えない部分も多くあったため、引き続き、個別の議論も含め、事務局と副代表団体との間で丁寧に意見交換を進めていく。